

げんでん ふれあい 福井

2014 SUMMER 第47号



ちいきのぶんかかつどう～財団助成事業の紹介～

第17回 ふくい風花隨筆文学賞 入賞作品紹介

ふるさと福井「酒井小浜藩初代藩主・江戸幕府大老

酒井 忠勝(五)」

徳垂後裔

文/田中 完一

筆者プロフィール

田中 完一
Kanichi Tanaka

昭和18年生、敦賀市在住。元敦賀高校・藤島高校長を歴任。現在、敦賀市文化協会会長。鉄道、切手収集、語彙、登山等の趣味を持ち、「敦賀をめぐる鉄道の歴史」「敦賀の山々」「福井県史」「角川福井県地名大辞典」や「山川福井県の歴史散歩」等著作多数。

敦賀は古代から海陸交通の要衝として栄えてきた。近代に入り、明治2年（1869年）、京浜間や京阪神間とともに、北陸の米を上方へ輸送する目的で琵琶湖畔―敦賀間の鉄道敷設計画が立てられ、同15年（1882年）には敦賀・金ヶ崎―長浜間に日本海側最初の陸蒸気が走った。

その後、北陸本線は同29年に福井へ、同31年に金沢へ、32年に富山へ延伸され、大正2年（1913年）4月に米原―直江津間が全通した。北陸本線は日本海側の人と物と文化の交流の大動脈として重要な役割を担ってきた歴史をもつ。

重要な北陸本線への期待は、柳ヶ瀬トンネル南口（滋賀県側）坑門上部に掲げられた参議・伊藤博文が揮毫した「萬世永頼」の石額（655mm×1,980mm）の文字に込められていた。「万世永く頼む」と読み、いつまでも永く頼りにするという意味である。また、北陸トンネルが開通する以前の杉津経由の北陸本線敦賀―今庄間には12のトンネルがあり、その内、比較的長い葉原トンネル南口に隸書で「興國咸休」が、北口に篆書で「永世無窮」が、また、山中トンネルの南口に篆書で「功加于時」が、北口に隸書で「徳垂後裔」の石額が掲げられていた。いずれも第2代内閣総理大臣を歴任し、このトンネル工事のころ鉄道を所管していた通信大臣であった黒田清隆の力強い揮毫である。石額の大きさも柳ヶ瀬トンネルとほぼ同じである。い

これらは、柳ヶ瀬トンネル脇に設置されているが、黒田揮毫の石額が外されたトンネル坑門上部の姿は、無惨で目を覆いたくなる。これらのトンネルは、複製が現地のトンネル脇に設置され、現地にあってこそ「徳垂後裔」（鉄道やトンネルを完成させたといふ徳は、子々孫々まで残るという）の意味が理解できるのである。



黒田清隆隸書「徳垂後裔」 660mm×2,420mm 拓本：千葉半庄（敦賀市立博物館所蔵）

目次 47

●卷頭エッセイ 「徳垂後裔」	2
●ちいきのぶんかかつどう ～財団助成事業の紹介～	3
●第17回 ふくい風花隨筆文学賞 入賞作品紹介	4~5
●ふるさと福井人物シリーズ 「酒井小浜藩初代藩主 ・江戸幕府大老 酒井 忠勝（五）」	6~7
●ふくいの伝統行事シリーズ 「和久里の壬生狂言」	8
●若狭の食彩（二） 「鯖（サバ）の食文化」	9
●敦賀市立博物館 誌上ギャラリー／41	10
●情報ファイル	11

表紙の説明

壬生狂言はその名の通り、京都市中京区壬生の律宗別格本山壬生寺に伝わる奉納芸で、文化年間に小浜へ伝来したとされ、市中の八幡宮前の永三小路にあった宝篋印塔の供養会で演じられたものが、明治6年に和久里の西方寺に宝篋印塔（市の塔）が移築されるに伴い、7年祭として子年と午年の4月中旬に3日間当地で奉納されてきました。今年は4月11日（金）から13日（日）まで、中日の市の塔供養会を挟んで毎日9曲が和久里壬生狂言保存会によって盛大に奉納上演。仏教的な教訓をまじえた大らかな笑いと喝采に、往時の庶民の生活が偲ばれます。



狐釣り

財団シンボルマーク

公益財団法人「げんてんふれあい福井財団」は、福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民のみなさんとの絆を大切にした広報誌を目指します。



ちいきのぶんかかつどう

～財団助成事業の紹介～

当財団では毎年、県内の文化団体等の事業活動に助成を行っています。今年度の助成事業の中から紹介します。

福井県指定無形民俗文化財

菅浜精霊船送り

今年も菅浜町菅浜の精霊船送りが8月15日（金）の夕刻に行われます。お盆の伝統行事を是非ご覧ください。

【お問い合わせ】

090-88822161-24

菅浜区長 清水さん



〈菅浜精霊船送りについて〉

その昔、天日槍の6代目にあたる菅原良度美（神功皇后の祖母）の一族が住んでいたといふ伝説をもつ菅浜地区は、今なお多くの特有の生活伝承や歳時習俗が温存しており、「精霊船送り」もその中の一つである。8月15日夜方6時頃、渚に置かれている精霊船は、大勢の村人に見送られ、曳き船で沖へ冲へと曳き出されます。

船は、カヤ、麦わら、竹などを束ねて造った長さ8メートル幅3メートルほどの大きさで、施餓鬼幡や色紙の切り紙細工を飾りつけて、曳き出す少し前

に各家から仏壇に供えてあつた瓜、茄子、餅、団子、生前好んだ菓子・果物等をバスの葉や紙に包んで船に積み込みます。

そして、ウリオイ（瓜負い）といつて、昨年のお盆すぎから今年のお盆まで1年に亡くなつた人のある家の人

が、その船に乗り込んで精霊を送ります。沖合2~3kmへ曳き出された頃、新聞紙などを貼り合わせて作った「精來丸」と大きく書いた帆を青竹のマストにあげ、曳き綱を放つてウリオイの人たちは曳き船に移り、別れを惜しみながら戻ってきます。

その頃、浜辺では念仏講の老女たちの唱える浜念仏の音と静かな波音が相和して、いつまでも精霊船を見送つて佇む村人の姿は物悲しい。この精霊船は、男女青年たちが15日までの3日間、総がかりで精根を傾け、男性は材料の調達から船の仕上げまで工に打ち込みます。

昭和10年頃までは、北浜と南浜の2



胴体3本を竹で連結します。



麦わらと葦で胴体を作ります。

②



胴体の上に長物を載せ、折り曲げて船の形にします。

①



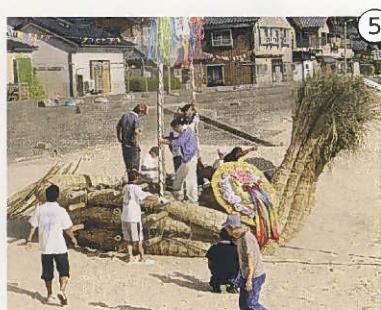
胴体の先3本を纏め、端を折り返し、船の形にします。

④



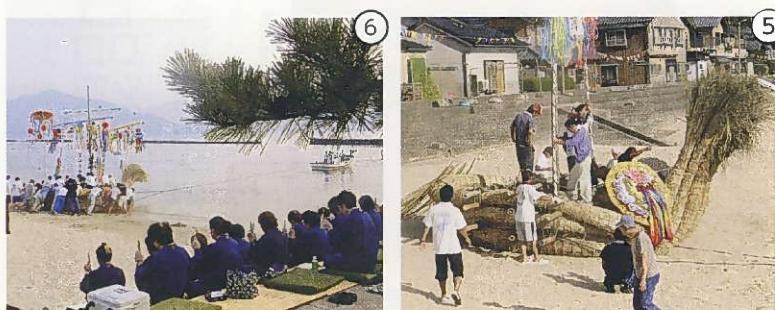
初盆の家族を乗せ、念仏の声に見送られながら海へ。

③



帆柱、飾りを取り付けます。

⑤



区分に分かれて、それぞれ1隻ずつ精霊船を造り、若い衆が伝馬船に乗り込んで、それを曳き、櫓を漕いでその速さを競い、その勝敗によって漁や豊作の豊凶を占っていたと伝承されています。この頃に戦争が始まり、人手不足に加えて材料の調達が困難となり、以後1隻の造船にとどまって今日に至っていますが、このお盆行事は大戦中といえども中断されることなく、生活共同体の支えとして、また村をあげての行事として、海の彼方の浄土へ送るという古い信仰によつて行われる伝統・規模共にすぐれた民族文化財であります。

（菅浜町）

《昨年の模様です。写真は菅浜青年会からいただきました。》

第17回ふくい風花隨筆文学賞入賞作品紹介

かざはな



河野 真知子さん
(福井県)

一般の部 優秀賞・げんでんふれあい 福井財団賞 「ホタルのくつ」

一般の部

優秀賞・げんでんふれあい
福井財団賞

5歳の息子が、幼稚園からお友だちの靴をはいて帰ってきた。子どもたちの間で流行っている、歩くとライトが光るおもちゃのような靴だ。困り顔をした幼稚園バスの先生の注意もどこ吹く風で、息子は満面の笑みで私に言った。

「ねえママ。ホタルよ。きれいねえ。」

息子は知的障がいをもっている。特に言語の発達が遅く、ことばによるコミュニケーションが大変苦手だ。それでもこの数年の訓練が功を奏してか、また彼の成長期がやっと始まったのか最近はおはなしがだいぶん上手になってきた。

ただの単語から三語文へ、そして文章へと、息子のことばは線路のようにどんどん伸びて広がっている。私たち家族はそのことがとても嬉しい、毎日が発見の

連続だった。

「ホタルのくつ」をはいて笑顔で飛び

ついてきた息子に、私は叱る言葉が思いつかなかつた。

「まあ、本當ね。どうとも綺麗。あなたはなんて素敵なことを言つのかしらー！」

お友だちの親御さんによろしくお伝えするようお願いした。

息子には少し強めのこだわりもある。

翌日から光る靴じゃなければならない、と泣くかもしれない私は少し不安だった。

「あの靴はね、あなたのものじゃないの。だから明日からは、またいつものあ

なたのお靴で幼稚園に行こうね。ホタル

のお靴はお友だちのものだから、持つて

きてはいけないよ。」しゃがみこんで手

を取り、目を合わせながらゆっくり語り

かける。息子は小さな声で「わかった。」

とこたえ、こくりとうなずいた。

翌日、心配しながら送り出したが息子はきちんと自分の靴をはいて帰ってきた。

よく見ると、同じバスに乗っている別の

お友だちも光る靴をはいていた。それを

「ふくい風花隨筆文学賞」(同賞実行委員会・福井県主催、げんでんふれあい福井財団特別協賛)の授賞式が、3月15日福井新聞社風の森ホールで行われました。この文学賞は福井県出身の芥川賞作家津村節子さんの隨筆「風花の街から」にちなんだ賞で、平成9年度に創設、毎年国内外から多くの作品が寄せられています。

当財団では、文化・芸術を愛する県民風土を高める顕彰事業として、毎年特別協賛し、「げんでんふれあい福井財団賞」を贈呈しています。



当財団の和智理事長から表彰を受ける三上操さん

- 一般の部（応募作品数1726編）
- ▽『最優秀賞・福井県知事賞』高山恵利子（群馬県）「父の杉」
 - ▽『優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞』
河野真知子（福井県）「ホタルのくつ」
 - ▽『優秀賞・福井新聞社賞』近藤幹夫（福井県）「父の万能薬」
 - ▽『優秀賞・福井仁愛学園賞』千々岩拓郎（佐賀県）「鉄心がつなぐ」
 - ▽『優秀賞・実行委員会賞』大野かほる（兵庫県）「父の豆乳」
 - ▽『優秀賞・実行委員会賞』川上由起（大阪府）「ミスター・ゴルバチョフの奇跡」
- 高校生の部（応募作品数1355編）
- ▽『最優秀賞・福井県知事賞』成沢希望（柏原体高校）「子守唄」
 - ▽『優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞』
三上操（武生商業高校）「祖母のマフラー」
 - ▽『優秀賞・福井新聞社賞』砂川城一（福井県立立山高等学校）「二つの国籍を持つ僕」
 - ▽『優秀賞・福井仁愛学園賞』浜田実桜（武生商業高校）「重根梨花（金津高校）「私の心のぶるさと」
 - ▽『優秀賞・実行委員会賞』山田紗冬（高志高校）「祖父からのメッセージ」
 - 他に佳作4編 奨励賞20編

※入賞作品は、「ふくい風花隨筆文学賞」ホームページ(福井県ホームページ内)に掲載しております。また、作品集をご希望の方は、実行委員会事務局(福井県教育庁生涯学習・文化財課文学館開設準備グループ(☎0776-33-8866))までお問い合わせください。



福井新聞社 風の森ホール
津村節子先生・西川一誠福井県知事(前列中央)
受賞者・審査委員・実行委員会の皆さん

見ても、息子はもう欲しいともはきたいとも言わなかった。

安心した一方で、私はとても不思議だった。一度気に入ったものは、かなり長く執着することが多い。今までどんな

に気に入ったものでも人のものを持つて帰ってしまうことなど無かったから、「ホタルのくつ」は彼にとって相当素晴らしいものだったと思う。それなのに、なぜもう執着していないのだろう。それが成長なのかなと思いつつ、息子の心の変化が推し量れないことが少し寂しかった。

それから半月ほどが経ち、息子と通う言語「ミユニケーション」の訓練施設でふと気が付いた。

息子はあの時「ホタルのくつ」を、私に見せたかったのではないだろうか。十五夜の月、風を切って飛ぶトンボの群れ、茜色から紫色へと暮れてゆく空、すすきの穂……。息子は、最近よく私に「ママ、キレイね」と教えてくれる。立ち止まつて一緒に見つめ、ほんと綺麗ねと言つてくれるのをまんまるな瞳で待っている。きゅっと手をつなぎ、抱き

締めて「うふふ」と共に笑えば、息子はまた歩き出す。

お友だちの靴が欲しかったわけではなくのかもしれない。ただママに、はつ夏の草いきれの中で見たあの日の蛍をもう一度見せたいと思ったのかも知れない。たった一言、「綺麗ね。」と言って抱き締めて欲しい。すいぶん時間は経つてしまつたけれど、息子がしてほしかったことがおぼろげながらわかつたような気がする。言葉をいくつも使って流暢に話すことには、彼にはまだできない。ほんの些細な

高校生の部

優秀賞・げんでんふれあい
福井財団賞

「祖母のマフラー」



三上 操さん
(武生商業高校)

私の小さな部屋の大きな学習机の椅子には、淡い色の椅子カバーがかけられている。ピンクと白を基調とした机には、毛糸で編まれたぽろぼろの椅子カバーは、時代遅れで浮いている。年中椅子にかけていて、しかも洗濯もあるから形も色も、もらつたあの頃とはだいぶ違っていると思う。私の大切な物。祖母が小学校の入学祝いに、手作りしてくれたのだ。すごく嬉しかったのを覚えている。でも私は、一度これを捨てた。これだけではない。かわいい孫の立場も、祖母の心までも、一気に捨てた。周りからすれば、小さい子どもの反抗期だったかもしれない。でも当時の私はとてもひどく、冷徹な行いに思えた。自分がこんなことをする

とは考えたこともなかつた。でもきっと、一番辛いのは祖母だったのではないだろうか。今思い出しても、とても痛々しい気分になる。あの頃の自分への憐れみなどではない。小さな祖母へのあの反抗が、本人に知られていたらと思うと、彼女を傷つけてしまうことに恐怖を感じる。きっと、ずっと忘れない。

大好きな祖母は、上品な人だった。畑仕事をしているので、勝手に気の強いイメージを持ちそうになるが、全くそんなことはない。冬は編み物をしていて、私もよく隣で見ていた。物静かで優しい、

厳格な祖父の一歩後ろを歩く祖母。外の世界とは切り離された、静かな世界。穏やかで自然豊かな超田舎。私達は夏と冬、

年に二回ほど祖父母の家に行くのが恒例だ。今は忙しくてそうでもないが、昔はこの季節が楽しみだった。私は祖母とずっといて、弟は祖父といた。これは自然にそうなつた。私が小学三年生の冬。祖母に手作りのマフラーをもらつた。椅子カバーとあわせて、一つめの宝物。嬉しくて

学習机に置いた。温かい気持ちになつた。新学期。まだ雪も残つていたので、もちろん祖母のマフラーを巻いていった。身体も心も温かくなつた。祖母の優しさに包まれている気分になつた。

教室に入つても寒さは変わらずだった。新年のあいさつをするため、マフラーと手袋のままで友達のもとへかけよつた。

「あけましておめでとう！」

「おめでとう！ あっ、そのマフラーって」「うん！ おばあちゃんが編んでくれてね。」

「へえ、上手！ さわらせて」「私はマフラーがとても誇らしかつた。が、「わあ、手作りだつて。なんかダサくない。」「私だったら絶対使わない。」

という声が聞こえた。どの学校にもいる、

気の強い子達の会話だつた。確かに、クラスの子達の色鮮やかなそれとは違つて

いた。しかも私は、極端に人の目に弱かつた。とにかく、お母さんが操を産む頃

かな。急に始めてね。練習で編んだ小さ

い毛糸のタワシを、皿洗いに使つてた。

母は悲しそうだつた。いや、私が悲しかつたから、そう見えただけかも知れない。

帰りの車中、私は沈んでいた。すると

「おばあちゃん昔はね、編み物しない人

だったのよ。でもお母さんが操を産む頃

かな。急に始めてね。練習で編んだ小さ

い毛糸のタワシを、皿洗いに使つてた。

母は、

カバーを捨てたことも、早口でまくしてた。完全に祖母を傷付けた。でも祖母は静かに聞いて、「じゃあ、これは弟にあげちゃうわね。」と、言つた。今思えば、これは祖母なりの私への気遣いだつたのだろう。でも祖母は悲しそうだつた。いや、私が悲しかつたから、そう見えただけかも知れない。

帰りの車中、私は沈んでいた。すると

「おばあちゃん昔はね、編み物しない人

だったのよ。でもお母さんが操を産む頃

かな。急に始めてね。練習で編んだ小さ

い毛糸のタワシを、皿洗いに使つてた。

母は悲しそうだつた。いや、私が悲しかつたから、そう見えただけかも知れない。

とにかく、心の奥で祖母のことを恨んでいた

自分もいた。

とつくり話した。私は泣いた。急いで

祖父母宅へ戻るよう頼んだ。そしてイン

ターфонも鳴らさず、ドアをどんどん叩いた。祖母は驚いていた。しかし祖母は優しく、泣きながら話す私に耳を傾け、またセーターを編んでくれる約束をした。

そして帰宅後、捨てたはずの椅子カバーとマフラーを母から返された。母の話によると、当時、これらが捨ててあつたとき、祖母つ子の私がどうしたことかと驚いたらしい。こつそりとつておいたもの、何があったのだろうか……。

私は断つた。あのマフラーがクラスの子にからかわれたこと、そしてそれと椅子

頼みごとでさえ、なかなか上手に伝えることができない。だけれど彼の小さな身体の中にはきっと、輝く原石がいっぱい詰まっているのだろう。重い鈍色の雲の切れ目から、ひとすじの日光が差しこむように、彼の放つことははいつも生き生きと光る。それでも雲の向こうにある北陸の雪雲のような「ミユニケーション」の壁は、生涯彼から去ることはないかもしれません。それでも雲の向こうにある彼自身の光は、たえず私たちにそそいでいる。

酒井忠勝

(五)

文／中島辰男

筆者プロフィール



中島 辰男
Tatuo Nakajima

《筆者略歴》

昭和3年 小浜市生
昭和19年 県立小浜中学より
陸軍予科士官学校

入学
昭和20年 敗戦により同校
解散、帰郷

福井県連合青年団長、内外海郵便局長、小浜市内外海公民館長、福井県教育委員長、福井県立若狭歴史民俗資料館長などを歴任。

「福井県の誕生—近代の越前と若狭—」「若越に想う」「若狭路往還」などの著作多数



義民松木庄左衛門像
(若狭町熊川 松木神社境内)

下げる聞きとどけ、大老として領国の安定を計るため穏やかな手段でない行動を起こす者を許すことは出来なかつたのである。両者の立場上相容れない悲劇であつたといわれている。

同時代の代表的な義民佐倉惣五郎の場合は、本人は言つに及ばず妻子まで処刑され、お家断絶の極刑に処せられている。しかし、松木家は長操の弟が家を継いでいる。勿論一揆の規模や状況から単純に比較できないが、背景にある水戸と若狭の人心の差であろう

元(1652)年5月16日の条に、「遠敷郡新道村ノ百姓庄左衛門松木長操ヲ同郷日笠河原ニテ斬ル(松木系図・東洋義人百家伝・酒井家御息方記)」とあり、これは忠勝治世の頃、米でなく大豆の貢納をめぐる百姓との大きい闘いがあつたことを示しているが、「酒井忠勝」著者藤井讓治氏は、義民伝承から史料により歴史的事実としての解明が待たれていると記しているが、更なる研究が望まれている。

大豆の年貢を4斗から5斗に上げた。こので、酒井忠勝からはなれて、長く酒井家に伝わった酒井家の名宝について触れてみたい。さる平成22年4月から6月にかけて平城遷都1300年記念大遣唐使展が奈良国立博物館で催された。国宝40件、重要文化財80件をはじめ海外の一級文化財など260件が展示されたという。中でも米国・ボストン美術館所蔵の平安絵巻の傑作「吉備大臣入唐絵巻」が27年ぶりに帰国し、日本での公開となつて、展示品の中でも注目を集めたという。

松木長操史跡公園
(松木長操処刑の地 若狭町日笠)

か。(角川(2)日本史辞典によれば、百姓一揆は江戸時代に、昭和の始めの研究では1240件余とも、戦後の研究でも3200件余に及んでいるという。)

ここで、酒井忠勝からはなれて、長く酒井家に伝わった酒井家の名宝について触れてみたい。さる平成22年4月から6月にかけて平城遷都1300年記念大遣唐使展が奈良国立博物館で催された。国宝40件、重要文化財80件をはじめ海外の一級文化財など260件が展示されたという。中でも米国・ボストン美術館所蔵の平安絵巻の傑作「吉備大臣入唐絵巻」が27年ぶりに帰国し、日本での公開となつて、展示品の中でも注目を集めたという。

新宿区立新宿歴史博物館平成22年度特別展「酒井忠勝と小浜藩矢来屋敷」によると、酒井家では明治44(1911)年、忠勝250年忌に当たり、忠

忠勝の時代に起きた若狭の義民松木長操について、「拾椎雜話」(宝曆10(1760)年)巻22の2に、「京極家の時、或いは酒井家の始めとも云う。郷方貢納の大豆4斗枷目にて納め來りし所を、御上より大豆は米と違枷目数多分たるべき物也と有、其後5斗入にて納め可申事に相成候に付き、郷中一統に訴訟致候得とも、曉と御聞届もなし。其内数百人大仰に相詰、先格の如く4斗入りにて納候願たいける。公儀より願ひは承届遣すべし、徒党を結びし曲事也と張本人新道村松ノ木と申者曰笠原にてたく磔罪也。其時松木大音にて國中永代大豆納めの為に身命を失う者也、後々大豆を取り候者は我に手向けよ云捨て相果てぬ。此訳にて昔より今に至るまで、秋大豆刈取れは先日笠河原松ノ木松ノ木と云て手向けする郷中のためし也と。松ノ木死罪御免の飛脚江戸より来る、今一時遅くして事過ぎたるよし。」との記述がある。

また、「酒井家編年史料総覧」承応

松木長操の義民伝説

忠勝の時代に起きた若狭の義民松木長操について、「拾椎雜話」(宝曆10(1760)年)巻22の2に、「京極家の

れている。

これらのわが国の代表的に貴重な文化財が若狭藩主の酒井家に何故伝えられたのか、今となつては推測の域を出ないが、いずれにしても若狭が京都に近い位置にあることがもたらしたものであろうと考えられる。



若狭藩主 酒井候菩提寺 空印寺
(小浜市小浜男山)

新視点から 忠勝を見てみよう

こうして忠勝の生涯を俯瞰すると、

実に堅実にしてしたたかである。慶安2年全国の農民に呼びかけた「慶安の触書」の、「朝早く草を刈り、昼

は田畠の耕作に努め、晩には繩をない、俵を編み、夫々の仕事を油断なくせよ」、「食にもならず燒いのもとになるだけの煙草は吸わぬこと」など32条

は、76歳まで生きた忠勝の人柄を投影したもの

ようにも思われる。かつて將軍交代期の危機を乗り切

るため、家康は2年で引退して秀忠を守

り、秀忠も又大御所として見守っている。

9年間家光を見守っている。

しかし、3代家光の不意の死去と後継の幼少11歳の家綱への交代は、

勝の遺物展が矢来の酒井邸で開催されたという。古文書を含めその数は126点に及び、その中に、上記「吉備大臣入唐絵巻」や、現在は出光美術館蔵の「伴大納言絵詞」(国宝)が、他の名宝とともに展示された。その後、酒井家では遺産相続のため大正12(1923)年、東両国の東京美術俱楽部で108点が出品され、6月12・13日が下見、14日に入札が行われて、予想を遥かに超える総額231万余円という盛況であったという。中でも「吉備大臣入唐絵巻」は最高額で18万8900円の最高額で落札された。

後にこの国宝級絵巻は、落札業者の手を経てアメリカに渡ったといわれている。このことがあって日本政府は、重要文化財の海外流失を防止するための法律を設けている。さらに酒井家では、昭和に入り58年に、前記と同じ平安の絵巻の国宝「伴大納言絵詞」を出光美術館へ32億円で譲渡されたといわ

ての危機であった。ひたすら忠勝は幕閣の大御所的存在としてその危機を乗り切ったもので、忠勝最大の功績といすべきである。

忠勝が配置した三河家臣団の譜代大名は、明治維新後華族に列し、貴族院の有力な母体となり、日本の国政に大きく参画した。天下分け目といわれた関ヶ原の戦いの勝者たちの後裔は、後の世に計り知れない人材を送ってきたことがうかがわれる。こうして見ると関ヶ原で敗れた長州や薩摩は280年後も維新の動乱に勝利し、自ら山口高校や鹿児島造士館高校をつくって後進を育て、長州の陸軍、薩摩の海軍というわれ、長くわが国の歴史を動かす人材を育てていく。家康以来ここに4百余年、関ヶ原の歴史は今に生きている

というべきか。戦争の中世から平和の近世への道を開いた老中、大老と32年の幕閣の中心酒井忠勝が、江戸時代の平和をもたらしたといえる業績をあらためて検証しなければならない。

若狭歴史民俗資料館、郷土史講座(酒井忠勝をめぐる人々)より、旧小浜藩士の娘、歌人山川登美子の歌二首

「小浜城址」
天守かく(矢ぐ)
尋つむ雪の しろあとに
タばえてりぬ しらさぎのむれ

「亡き父へ」
後瀬の山に くつるとも
歴史が見直され
つつある今日、杉

田玄白、中川淳庵
梅田雲浜等とは別に酒井忠勝についても、郷土ゆかり



酒井家之墓と歴代藩主墓碑

国選択無形民俗文化財 「和久里の壬生狂言」

小浜市

そもそもこの宝塔の由来を尋ねるに

壬生狂言を明治以来継承してきた小浜市和久里は、本来は南川右岸の国道27号線とJR小浜線に隣接したのどかな農村地帯。近年は都市化が進み、「新和久里」と呼ばれる新興住宅地が立地して現在世帯数は200戸をこえ、バスや道の駅、舞鶴若狭道のインターも出来、商店街も形成されて小浜市で一番の賑わいが見られます。

当地で明治以来上演されてきた「和久里の壬生狂言」は、その名通り京都市中京区壬生にある律宗別格本山壬生寺に中世以来伝わる、仮面無言劇の壬生狂言の流れを受け継ぐ民俗芸能の一つ。「そもそも此の宝塔の由来を尋

ねるに、昔、延文二年（1358）当時開基、元の郡令、永井雅楽佐朝阿弥、深き誓願有りて建立せし処なり」と小学生たちが市の塔を前にして奉読する「宝塔縁起」の冒頭にもあるように、もとは魚市場の繁栄を願つて「宝篋印塔」（市の塔）が今宮区の市場町に建立され、その供養のために「融通大念仏狂言」の流れをくむ壬生狂言が奉納

害を受け、ようやく昭和53年に本格的に復活。以後7年祭りとして壯年グループの甚六会の献身的な尽力により、ループの甚六会の献身的な尽力により、継承されています。

供養会と演目



宝塔縁起の奉読

西方寺の境内に藁や檜や杉の枝葉で葺かれた小屋掛けの舞台で、三日間壬生狂言が上演されます。中日の午前10時から僧侶8名によって厳粛に施餓鬼供養・大般若経転読と小学生による宝塔縁起の奉読が行われます。

現在「餓鬼角力」「炮烙割り」「愛宕参り」「寺大黒」「ころろ滑り」「花盗人」「狐釣り」「座頭の川渡り」「腰折り」の9曲の演目が伝えられており、三日間順番を変えて上演されます。このう

さてきました。

その後男山の八幡神社前の永三小路に移され、和久里的西方寺が朝阿弥によって建てられた時宗の寺であることから、明治6年に再度移設。子年午年に七年供養会が行われ、明治45年より区民によつて狂言が6年ごとに昭和17年まで上演されたものの戦争で一時中止し、更に昭和28年の水害で甚大な被災



座頭の川渡り

ち、「狐釣り」と「座頭の川渡り」はすでに壬生寺では廃曲になつており、特に「狐釣り」は能狂言の「釣狐」のパロディーとされるもの。悪賢い狐と三人の獵師の知恵比べが、野趣あふれる演技で面白おかしく展開される注目の一番。また、「座頭の川渡り」も狂言の「月見座頭」と同じく盲人の座頭の坊の親分と子分が、春の宵に河原で野酒を酌み交わしていると悪人が現れ、酒を盗み飲まれるなどの悪どい悪戯をさんざんされて世の不運を嘆く、反面教師的な教訓が込められています。いずれも悩み多い庶民の哀歎がよく伝わってきます。

2月23日に美浜町の生涯教育施設の

なびあすで、本場の壬生狂言の記念公演があり「鶴」「大原女」の2曲を上演。花の都で数百年にわたり継承されてきただけにさすがによく洗練され雅やかな芸能文化の粹を感じさせました。一方の和久里的狂言は、当地の農民が受け継いできたもので旺盛なユーモアと野趣に富んだ活力あふれる名場面ばかり。ぜひ、次回はご一見ください。

（若狭路文化研究会 会長 金田久章）



大般若經の転読

その後男山の八幡神社前の永三小路に移され、和久里的西方寺が朝阿弥によつて建てられた時宗の寺であることから、明治6年に再度移設。子年午年に七年供養会が行われ、明治45年より区民によつて狂言が6年ごとに昭和17年まで上演されたものの戦争で一時中止し、更に昭和28年の水害で甚大な被災



餓鬼角力

若狭の食彩(二)

鯖(サバ)の食文化

「鯖街道」の名で広く知られている若狭では、鯖は大変身近な食材です。かつては、「鯖が湧く」と言われたほど多くの鯖が獲れ、京をはじめ各地に送り出していました。鯖が獲れにくくなつた現在でも、へしこ、なれずし、浜焼き鯖、鯖寿司、鯖ののた(ぬた)など多くの料理があります。

○○ 鯖列車・漁港濱小

小浜漁船は鯖の初
漁以來活氣づき十
五、六、七の三日
間の漁獲は四十万
尾に達し其販所は
鯖の山を歩いてゐ
る、小浜漁船では本
春初の駆列車十五
日十輪、十六日二
十三輪、十七日十
五輪を仕立て京阪神、名古屋方面
へ輸送したが、漁場の相場は二尾
三十二萬圓弱

昭和16年3月19日 朝日新聞

ことに由来する名前ですが、ネギを沢山入れるなどして、全く臭みはなく、上品な甘めの汁です。新保区の方によると、汁と言うよりは、具沢山のおかずという感覚で、深めの小皿に盛り付けて頂きます。

市内でもこの料理が伝わるのは当区のみで、区内約四〇軒のうち一〇軒程の特定の家で作られているそうです。この料理は、かつて近くにあつた霞美ヶ城の人達が伝えたのではないかと言われているそうでロマンある料理です。九月の秋祭りや家の建前など祝い事や、法事や葬式の後の精進あけなどに食べられています。また、現在でも焼

き鯖を親戚に配る習慣があり、秋祭りに、焼き鯖、赤飯、かまぼこを、五月終わり頃の五月休み(ヤスンギヨ)には、焼き鯖と柏餅を配るそうです。具は家によって異なりますが、焼き鯖、麩、竹輪、蒲鉾、椎茸、しめじ、豆腐、ネギなどを入れます。祝い事には赤蒲鉾を、精進あけには焼き蒲鉾を用います。まず、焼き鯖の頭で出汁をとり、砂糖、醤油、塩、酒で味付けをしてから具を入れます。最後に焼き鯖とネギを入れサッと煮ます。具は大きくなり、煮すぎない事がポイントです。

焼き鯖のちらしずし

西の鯖街道の起点である高浜町では、焼き鯖が入ったちらしずしが食べられています。このちらしずしを販売されているご夫婦によると、冠婚葬祭に赤飯とセットで食べられているそうです。一〇月中旬の秋祭り、七年祭り、雛祭りなどの節句と、祝い事には紅生姜を、法事や葬式など仏事には、落ち着いた色の生姜を添えていただきます。

かつて、手で田植えをしていた頃は、手伝いに来てくれた人(早乙女)に、焼き鯖のちらしずしや、焼き鯖、鯖の煮物、「てっぺ(鉄砲和えとも)」と言つて、ネギを湯がき、酢でしめた鯖を酢味噌で合えたものなどを、昼食にふるまつていたそうです。また、子供の頃、地引網を手伝うと鯖がもれえたなど、鯖が簡単に手に入つたそうです。

具は、家によつても異なりますが、

小浜市東部に位置する新保区では、すまし汁に焼き鯖が入つた「なまぐさ汁」が食べられています。魚を用いる

なまぐさ汁



なまぐさ汁

竹輪、錦糸玉子、紅生姜、グリーンピーチ、高野豆腐、人参、竹の子、高浜町の白

驚くほど美味しい、若狭の鯖料理は、食の文化財ではないでしょうか。



焼き鯖のちらしずし

日光三滝図 三幅

狩野 探淵 筆



(左幅) 裏見の滝



(中幅) 華厳の滝



(右幅) 霧降の滝

□絹本著色
□縦 122.0cm 横 50.2cm (三幅共)
□江戸時代後期
□落款 探淵斎法眼藤原守真筆
□印象 「狩野」朱文方印

中でも最も有名なのが、中幅に描かれる華厳の滝です。中禅寺湖を水源とし、落差97m、豊かな水量を誇ります。

右幅の霧降の滝は、上段は25m、下段は26mの落差があり、上部では3mの滝幅が、下部では15mにもなるといいます。落水が段差にあたって飛び散り、霧の

雲烟漂う山中、木々の緑も鮮やかな岩壁を落下する滝の姿を描いています。冷涼な水の飛沫の気配まで感じられるような、清涼感溢れる作品です。

これらの滝は東照宮で知られる栃木県日光市の山中あり、特に日光三滝と呼ばれています。

中でも最も有名なのが、中幅に描かれる華厳の滝です。中禅寺湖を水源とし、落差97m、豊かな水量を誇ります。

古来より山を神聖視し、信仰の対象とする山岳信仰が育まれてきた日本において、神秘的な姿を見せる滝もまた特別な存在、神聖な存在とみなされてきました。修行の場、また滝そのものを信仰の対象とするなど、単に景観を楽しむにとどまらない敬虔な感覚が、太和絵的穏やかさで描かれたこの三幅の滝にも漂つているようです。

作者の狩野探淵は江戸幕府の奥絵師を勤めた鍛冶橋狩野家の八代目。天保15年（一八四四）に法眼に叙せられ、江戸城西の丸・本丸再建の際に御殿障壁画を揮毫しています。

（敦賀市立博物館 学芸員

高早恵美）

ように降ることからその名があると言われます。

左幅の裏見の滝は、元は本図のように滝の裏側に道があり、裏から眺めることができます。元禄2年（一六八九）に『おくのほそ道』の旅で日光を訪れた松尾芭蕉も「岩窟に身をひそめ入りて滝の裏より見れば」「暫時は滝に籠るや夏の初」と残しています。しかし明治35年に上部の岩が崩れ、この景観は失われてしましました。

情報ファイル

本誌へのご意見・ご要望

第46号(平成26年1月発行)のご愛読者アンケートから

- ふるさとの自然、歴史、文化について興味があり、とても楽しく読んだ。地域に根ざした活動を紹介してほしい。
- 地域の知られざる歴史・文化を更に紹介してください。
- 「ふるさと福井人物シリーズ」、「福井の伝行事シリーズ」を興味深く読んだ。
- 「若狭の食彩」の連載が楽しみ。豊富な福井(若狭)の伝統食、おなか一杯にしてください。

ご意見、ご要望ありがとうございました。これからも皆様のご意見をうけたまわり、本誌の充実に努めてまいります。ご支援、ご協力をお願いします。

平成26年度事業計画及び予算を決定

当財団の平成26年度事業計画及び予算が3月14日開催の理事会、評議員会で可決、承認されました。

〈重点施策〉

- 文化団体等の活動を支援する助成事業の推進
- 県内高等学校文化活動への支援
- 魅力ある文化イベント提供事業の推進
- 地域に根ざしたふれあい活動の推進
- 文化・芸術を愛する県民風土を高める顕彰事業の推進
- 信頼され親しまれる財団広報・広聴活動の展開

〈主要事業及び予算額〉

- | | |
|--|----------|
| (1) 地域文化の振興等に関する事業 | 13,000千円 |
| 文化団体等の活動支援、ふくい風花隨筆文学賞特別協賛、福井県かきぞめ競書大会特別協賛、若狭路民俗文化等の継承・保存事業 等 | |
| (2) ふれあい及びゆとりの創造に関する事業 | 2,850千円 |
| 文化講演会の開催、音楽会等への協賛 等 | |
| (3) その他の事業 | 2,118千円 |
| 広報誌「げんでんふれあい福井」発行 | |

平成26年度助成事業を決定

平成26年度 財団助成事業交付金

助成対象事業	団体数	助成額(千円)
地域文化の振興事業	文化団体等活動助成	12
	国際文化交流助成	2
	文化のまちづくり助成	10
	市民参加型芸術文化助成	6
	郷土の歴史、文化の保存・伝承活動助成	16
ふれあい及びゆとりの創造事業	芸術公演助成	7
	環境保全等地域づくり助成	2
福井県高等学校総合文化祭等育成支援事業		1
合 計	56	10,390

当財団では毎年、県内の文化団体等の事業活動に助成しています。3月31日、5月15日に選考委員会を開催し、56団体(新規の団体は13団体)に1,039万円の助成を決定しました。敦賀市文化協会会長の田中完一様、鉄道工ッセイありがとうございました。

編集後記

ふるさと福井人物シリーズ「酒井忠勝」が完結しました。お忙しい中、新たな視点で忠勝を評価したいと意欲的に執筆していました。中島辰男様に厚くお礼申し上げます。

舞鶴若狭自動車道が全通。民俗文化財の宝庫といわれる嶺南が近くなります。「精靈船送り」、「大火勢」、「敦賀まつり」、「放生祭」等々、お盆の行事や秋のお祭りにぜひお越しください。

地域文化の振興にかける皆さん、応募、ありがとうございました。本年度の助成事業に多数のご熱い思いが伝わってきます。少しでもお役に立てれば…。

「去稚心」。中学校の講堂に掛けてあった額。当時の校長先生は演台からいつもこれを指差し、私たち生徒に幼心を捨ておとなになるよう訓示された。年を経てもこの言葉、場面は深く脳裏に刻まれている。橋本佐内の「啓発録」を読み返す。昔の人は偉かつた。次号は明年1月に発刊の予定です。ご意見、ご要望をお聞かせください。

北陸新幹線金沢・敦賀間の着工。新しい敦賀駅舎が完成。赤レンガ倉庫に鉄道ジオラマを整備。敦賀で鉄道が再び動き出しました。敦賀市文化協会会長の田中完一様、鉄道工ッセイありがとうございました。



— 財団助成事業の日程等 —

8月以降に開催され、一般の方も参加（鑑賞）できる事業の主なものをご紹介します。是非、ご参加ください。
期日等は変更されることがありますので、事前にご確認ください。

事業名	場所	期日	照会先 入場料 その他
第45回福井県文学コンクール作品 (創作・詩・短歌・俳句・川柳・童話・漢詩) 募集		7/1 ~ 8/31	☎ 0776-53-0515 (ふくい文芸の会事務局 市村)
第11回花筐薪能	越前市粟田部 花筐公園	8/10 17:00 ~	☎ 0778-42-0361 (花筐公民館) 入場料 S席 5,400円 A席 3,800円
県指定無形民俗文化財「福谷大火勢」	おおい町福谷	8/14 ~ 15	☎ 0770-78-1621 (福谷大火勢保存会 中川)
県指定無形民俗文化財「菅浜精霊船送り」	美浜町菅浜海水浴場	8/15	☎ 090-8822-6124 (菅浜区長 清水)
越前朝倉万灯夜	福井市一乗谷朝倉氏遺跡	8/23 ~ 24	☎ 0776-41-2330 (朝倉氏遺跡保存協会内 夢・創造 足羽会)
遊舞っさ 10	勝山市民会館	8/24	☎ 0779-88-8114 (勝山市青年団体連絡会 祐安)
木水奥右衛門(育男)指導児童画展	鯖江市 まなべの館ほか	9/1 ~ 11/30	☎ 0778-51-8639 (実行委員会 坂口)
アンデパンダン inSABAE	鯖江商工会議所 ギャラリー新ほか	9/28 ~ 10/12	☎ 0778-51-8639 (さばえをアートなまちにする会 坂口)
ミュージックフレンズ20周年記念 川村文雄ピアノリサイタル	若狭町 パレア若狭	9/21	☎ 0770-56-0344 (ミュージックフレンズ代表 重田) 入場料 一般 2,000円 学生 1,000円
宇野重吉生誕100年記念公演 記念講演会「私と宇野重吉一座 最後の旅公演」 講師：日向ともゑ 「ワーニャおじさん」上演	福井新聞社風の森ホール 福井市文化会館	9/27 10/4 ~ 5	☎ 0776-25-2407 (宇野重吉演劇祭実行委員会 飯田)
ふくい県民総合文化祭 第34回福井県市町文協選抜美術展	越前市市民ホール	9/27 ~ 29	☎ 0778-23-6123 (武生西公民館内 越前市文化協議会)
真舞流吟舞道創流55周年記念 第47回「吟舞の祭典」全国名流大会	福井市文化会館	9/28 10:00 ~ 17:00	☎ 0776-66-4631 (真舞流吟舞道会 増田)
第24回福井県市町文協選抜芸能祭	永平寺町線の村 ふれあいセンター	10/5 12:00 ~	☎ 0776-61-2009 (松岡公民館内 永平寺町文化協会 宇野)
福井市指定無形民俗文化財 「オシッサマのお渡り」	福井市本堂 高雄神社	10/11 ~ 12	☎ 0776-37-1234 (安居公民館 円光)
第6回古墳の里リレーマラソン	若狭町脇袋	11/16	☎ 0770-62-0053 (瓜生公民館 松宮) 参加料 3,000円
第30回墨映会水墨画展	福井市美術館	11/6 ~ 10	☎ 0776-27-2227 (墨映会事務局 南部)
南越前町合併10周年記念第九演奏会	南条文化会館ホール	12/7	☎ 0778-47-3810 (南条文化会館内南越前町教育委員会 川端) 入場料 1,000円
第2回永平寺町みんなの第九コンサート	福井県立大学 交流センター	12/14	☎ 090-2093-4986 (みんなの合唱団コールフロイデ 山口)
第3回さばえ近松文学賞募集		H27年1/1 ~ 6/30	☎ 0778-51-3376 (立待公民館)
「鍵盤上のアリア」 今川裕代(ピアノ) & 塚越慎子(マリンバ) コンサート	敦賀市民文化センター 大ホール	H27年1/11	☎ 080-3046-0924 (実行委員長 水上) 前売り 大人 2,000円 高校生以下 1,000円
国指定重要無形民俗文化財 「敦賀西町夷子大黒綱引き」	敦賀市相生町(旧西町)	H27年1/18 12:00 ~	☎ 0770-22-0941 (夷子大黒綱引き保存会 大道)
第28回鹿谷町雪まつり	勝山市鹿谷町 鹿谷小学校 鹿谷公民館	H27年2/8	☎ 0779-89-2111 (鹿谷公民館 長谷川)
スペシャルコンサートⅡ	鯖江市文化センター	H27年2/15	☎ 0778-52-7430 (鯖江市文化センター 竹間)

財団イベント INFORMATION

ビートフェニックス 2014	Every Little Thing ク里斯・ハート 植村花菜 グッドモーニングアメリカ ハジ→ 片平里菜 吉田山田 Salley	9/13(土) 14:00~	福井フェニックス プラザ大ホール	福井エフエム放送主催 財団協賛 (前売り) 6,800円 (当日) 7,300円
-------------------	--	-------------------	---------------------	---